

さくら

2024. 4. 12

今年も桜が咲いた。幼稚園にも桜の木がある。4月9日（火）入園式の日には、ちょうど見頃になるかと思っていた。ところが、当日は、本降りの雨だった。おかげで、桜は寂しげだった。加えて、強い風が吹き始めた。これでは、桜が散ってしまうではないか。案の定、駐車場の車には、綺麗な桜の花びらのペイントが出来上がっていた。

今年は、どこの桜を見に行こうか。家人から「夜ノ森」という提案があった。なるほど、即決だった。早速、出かけることにした。実は、富岡町には何度か行ったことがある。だが、夜ノ森の桜を見たことがなかった。何度も行っているが、すべてソフトテニスの大会だった。

テレビや新聞では何度か見たことがあった。そのイメージのまま出かけた。行ってみると、予想よりも規模が大きかった。残念ながら、満開には早すぎた。見頃とは言えなかった。だが、次の週末まで待つと、散ってしまう。桜とは、そういうものである。決して待つてくれることはない。だから、いいのだろう。あの儂さが魅力でもある。

桜まつりということで、会場を複数設けての催し物があった。駐車場も何か所もあった。ある程度は人出が多いとは思っていたが、予想を超えていた。活況を呈していた。それだけに、かえって震災の爪痕が痛々しかった。復興は、まだまだである。

こここのところ、原発エリアの町村に出かけることが増えた。コロナが落ち着いてきたということもある。それだけではない。行くのが半ば義務、いや使命のように思えた。常磐自動車道を走ると、放射線量を示す表示がある。まだまだ高い。それが現実である。今では、このエリアまで来ないと、数値を気にすることはなくなった。ここに来ると、現実に引き戻される。

たくさんの人の期待に応えるかのように、懸命に咲こうとする桜を堪能した後、道の駅なみえに向かった。駐車場に車をとめるだけで一苦労だった。大盛況だった。お昼ご飯がお目当てだった。食券販売機には、「売り切れ」の表示が並んでいた。見通しが甘かった。夜ノ森で見かけた人が多かったように思えた。

このエリアに多くの人に来るのは、いいことなのだろう。町は、活気づく。震災のことを新たに心に刻むためにもいい。桜は、健気である。場所を問わず、毎年、必ず咲いてくれる。そして、人を喜ばせてくれる。特別な花である。咲いている期間は、一年のうちのわずか数日である。にもかかわらず、人の心に強い印象を残す。類まれな存在である。幼稚園にいるせいだろうか。今年は、桜ではなく“さくら”が合うような気がした。